令和２年度　第一回地域創生戦略会議企画委員会　議事録

日時：令和２年８月５日（水）16:00～18:00
場所：オンライン

【ショートスピーチ】
（委員）

・私が経営する会社は２月から全員がリモートワークをしている。６月末までの間、オフィスへの出勤率は５％を切った状態だが、業務に影響はない。９月末には、場所は維持しつつ、約４分の１のスペースにする予定。
・東京では、電車で通勤する人の数は、以前に比べてかなり減っている状況。本来であれば、オリンピックが始まって大混乱しているはずが、そういった様子もない。
・コロナの中を生き抜いていくために、自宅で作業してもらえる環境を整えるための従業員への補助や、自宅で作業する電気代を会社に負担してもらえるようにログの解析技術を使ったサービスを提供しようとしている。
・テレビなどでも言われているが、ジョブ型雇用に移行してきている。どういう成果を出したのか、どれだけ会社に利益貢献したかという評価の仕組みに進んでいる。ＩＴ系の会社では、リモートワークの延長で業務委託契約に切り換える準備をしている会社も多くある。業務委託では、業務に応じて賃金を支払う仕組みで、専業の縛りをなくすので、副業も可能となる。
・働き方の自由度が増えるが、自己責任の部分も増える。やりやすいと感じる人もいる反面、不安を持ち、右往左往する人がいることも否めない。
・豊岡市では、移住相談が昨年に比べて２～３倍増えたと聞いている。生活コストを下げることで、今の給与や働く場所を変えて、生活を成り立たせようと思う人もいる。必ずしも、生活コストを下げたいだけではなく、自分自身の生き方を考え直すいい機会になったと非常にポジティブな感触を持っている人もいる。
・生活コストの安い所に住んで、自然と触れ合い、子どもとの時間を大事にしながら、生活するところを探している人が多く、「自然」と「仕事ができる環境」の二つがキーワードかと思う。
・自分が移住して感じたのは、移住先が外から来る人を受け入れる土壌がある場所だったということ。外から入ってくる人に対して、受け入れ慣れている地域だった。東京対地方の戦いが崩れつつあり、地方対地方という話がきっと始まる。地方で暮らすことの幻想がどんどん大きくなる。生活したらイメージしていた生活と違うことが当然起こるが、先輩移住者がどうフォローしていくのかが大事と感じた。
・豊岡市では、移住者が豊岡市内でどのような生活をしているか、移住する前のイメージと移住したあとを取材して、ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」で発信している。地元にしか住んだことがない人にしてみると当たり前だが、移住者が受けた衝撃を記事に残しているということで、後から入ってくる移住者は、すごく参考になる。どこかの企業に依頼して作るのではなく、地元のボランティアが記事にしていることが、すごくいいやり方だと思う。

・記事を読むと、自分が何をなすべきなのかという目的を持って何かをする、いわゆる「ｄoing」の発想は薄い。自分自身や子どもたち自身の「今」にフォーカスする「being」に注目が集まっている。何のためにするのかということでなく、自分がそこに存在している理由を大事にしていこうと感じる人や感じられる文書が多い。
・そこにいる人たちがどういう人たちなのかを取材して、情報を発信していくことが都会から来た移住者の幻想を壊さない。また、この町で暮らしてきている人達の邪魔をして、軋轢を生んでしまうこともなくなるので、うまくソフトランディングできる。

（委員）
・我々は「ローカルエコノミー」を大切にしている。不動産業では、高架下の空間に鞄アトリエや家具の工房などの事業者を誘致している。５年前からスタートしたファーマーズマーケットでは、野菜の朝市を毎週土曜日の朝に開催している。お付き合いのある方は、農家や食品事業者などフリーランスや個人事業主の方が多い。他には、シェアオフィスを運営していて、デザイナーや建築家などのクリエイティブ系の方に入居いただいている。
・起業や移住されたクリエイティブ系の方や農家などと付き合いがあるが、共通することは、ＤＩＹ精神をもっていること。顔が見えることを意識したいと考えていること。
・これまで 10 年くらいやってきたことを本にまとめた。大都市で材料を安く調達して、地方で安価に作って、インターネットで商売をすると、大都市に頭脳系の雇用がどんどん集まってしまい、地方は単なる工場かサービス業しか残らない状況になる。これからは、材料を自分で作るか、知り合いから買い、自分で作り、顔の見える取引で商売を地道に広げ、ローカルで雇用を作っていくことが必要。その中で、スタッフが独立し、ネットワークが構築される。極めて地道な作業だが、そういった仕事が地域にないと移住してくる人はいない。こういうことをコツコツやって、ひとりでやっている人が 10 人くらいの雇用ができる産業に育てていくことが重要。
・兵庫県の場合、都市、農村、自然がある。この３つが共存している中で、神戸市を中心とした大都市が他の街とコミュニケーション、貿易をして、今ほとんどのこの都市の中にいる人たちは、何も作らず情報を右から左に回しているだけ。
・ローカルエコノミー型ビジネスでは、農業中心としたフードビジネス、工務店、地元の皮を使って鞄や靴をつくるプロダクトメーカー系、生活体験型のツーリズム、そういった人たちを操りながら状況を変えていけるエリアディベロッパーの５業種に注目をしている。こういう人達は、資源を見つけて、地域の中であるもので作って、大きな稼ぎはないけど、そういうことを志向する時代ではないかと思う。例えば、神戸のような都会には、外の人に売るためのクリエイティブ系の仕事がある。もっと地域に入っていって、地域の良いものを外に売ることをやっている人がいる。山の中にあるもの、海にあるものを、建築業や農業などの地道な仕事をブラッシュアップして、新しい産業を作っていくことを我々は進めていこうとしている。
・循環を目指している事例として、淡河町の古民家を使って、農業スクールを始めた。この農業スクールは２週間に１回、100 ㎡の畑を担当し、仕事をやりながら農業をしたい方を募集したところ、定員が集まって、秋からスタートしている。農家になるた

めの入口がファーアマーズマーケットしかないため、もっと複数の入口をつくっていかなければいけないと思っている。農家さんが民泊をすることや料理教室をすることで、農家の多様な収入をつくろうという実験場でもある。農業スクールに来た人は、地域に通うことによって、顔が知られ、地域の人と触れ合う中で、いいなと思った人を引き込んでいく機能も持たせようしている。

・淡河町にも、すばらしい神社やすばらしい池があり、誰も行かないような、言いたくもないような場所がある。探せば、地域にはまだまだたくさんの宝がある。

・働き方に関しては、我々は完全にマルチワーク型の働き方をしている。不動産の営業はサイドビジネスをしてもいいし、ファームスタンドの人たちは、イラストレーターや業務委託をやりながら、週３日などのシフトを組んで働いている。

・１人や２人で頑張っている事業者を 10 人ぐらいのサイズの会社にしていくことを支援するというのが重要。９人増えたところに若者の雇用が生まれて、その雇用が移住につながる。仕事がないと移住はできない。若者は、大企業で働きたいかというとそうではなくて、賃金が安くても、おもしろい仕事をしたいという人が多い。おもしろい仕事をやっている小さな会社が 10 人くらい雇用できるようにしていくということが大事。

・コロナの影響で、オンラインを使うことで、時間を節約できるようになった。週５日働いているのを週４日や３日に集約して、残りの時間で農業をしたり、古民家を直すことに時間を使おうと思っている。オンライン化をするのではなく、オフライン化する時間をどんどん作る。そういった暮らし方が兵庫県なら作れると思う。農村、山、海があり、その環境の中で、週４日か３日は都市部で働く。そういう働き方を神戸圏で作っていって、行政が在宅勤務の先進都市のイメージを主導していくべき。

【意見交換】

（委員）

・どの地域に住んでいても、いろいろな方に仕事があるというジョブ型でやっていくことが必要。世帯で移住するときに、旦那さんは仕事を持ってくるが、奥様も地域のお手伝いだけではなく、月３万円の仕事を複数持って、マルチタスクで活躍する可能性が非常に高い。そういった方がペアで仕事がある状態が理想的。家族セットというか、女性や外国人などすべての人にやることがあるという環境を整えることが必要。

・公園などのオープンスペースでは、土日の夜にキッチンカーで出店することもできる。ファーマーズマーケットのように建物も屋根もない自由空間で仕事をするという状況づくりは非常に効果的だと感じた。

（委員）

・豊岡市に事業所を開設して、主婦の方を 10 人、引きこもりで働けなかった青年１人を雇用している。家族セットという話では、私が東京で受託の案件を取ってきたり、提案したりして、インターネットを使って、豊岡の主婦が仕事をしてくれている。自宅でできる仕事を提供するお手伝いができている。

（委員）
・今まで付き合ってきた移住者の中では、移住することを男性よりも女性が決めたケースが多い。移住した女性が週３～４日働ける場所を作っていくことが重要。

（委員）
・子どもと一緒に過ごしたいという思いで移住される方もいる。移住したことが子どもの高等教育の機会を閉ざしてはいけないという考え方もある。今が大事という考え方もあり、非常に興味深い。将来と家族設計と展望をどう考えている人がいるのか。

（委員）
・東京には、文化的な設備や施設、美術館などが多数ある。高い教育を提供してくれる私立の学校も検討したが、受験を戦うための詰め込みをさせることによる功・罪が両方あると思う。あまりそこに魅力を感じなかった。子どもが最終的にどう思うかは20年後のお楽しみ。

（委員）
・幼児、小学生、中学生、高校生のタイミングで違うと思う。最近の傾向としては、小学校に入るまでは、自然豊かなところで育てたいという人が多い。小学校の質にこだわるより、環境や人数の少ないところに行きたい傾向がある。自然派保育園を探す人も多い。小学生、中学生になると教育的な視点がでてくるところがある。神戸や阪神地域は、教育がしっかりした場所としてアピールできる。

（委員）
・外の人をいかに受け入れるかが非常に重要。外の人がどのように入っていけるのか、これまでの経験でポイントがあれば教えていただきたい。
・所得の低い人達が週に何回かオンラインを中心に仕事をし、残りの時間を農業などでクリエイティブな仕事をする生活を望むのか疑問。クリエイティブな仕事や場所を問わない仕事をしている人は、全体的に見ると所得が高い方が中心かもしれない。場所にこだわらない教育を選択できる層は、ある程度所得が高い層になるのではないかと考える。

（委員）
・オンラインで仕事ができる方は、ホワイトカラーに属していて、指揮命令系統の上の方にいる方だと認識している。そのため、所得が下がったとはいえ、標準から見ると高いという表現が正しいと思う。
・移住先を検討する際に、先輩移住者のところを訪問し、試行してから移住している。週末に子どもを連れて通って、子どもや妻が馴染めるかどうか、仲間に入れてもらえる雰囲気があるかなど家族で話をして、頻繁に訪れたうえで移住している。

（委員）

・コロナの第一波が終わったころに、また元に戻るのかなと思った瞬間があった。日本全体の問題かもしれないが、これを機に在宅勤務をかなり進化させるべき。兵庫県が先進地域になると、企業誘致をするうえでイメージがいいと思う。

・東京からの移住先は、逗子、鎌倉、長野、京都、福岡などが多い。神戸は、神戸の良さに徐々に気づいて、移ってくる人がいる。高所得な人であればあるほど、農業などの泥臭い仕事に入れない人が多い。所得は下がるが、生活はかなり豊かになる。そういった思いを持つ人の受け皿になると思っている。

（委員）

・移住を進めるなかで、多自然地域における都市機能がどれくらい必要かを考えている。北播磨、西播磨、但馬地域などの山奥に多くの方が移住したいという希望があるか不安を覚える。個人的には、１時間くらいの移動で何らかの都市機能がないと移住は難しいという感覚を持っている。

（委員）

・１時間で新宿に行ける逗子は利便性が高い。都市から自分が都合良く離れられるし、都合よく戻れる。利便性は重要。

（委員）

・車で２時間かけて行った地域は自然が深くて素晴らしかった。感動することが多いが、30～40 分の距離感は圧倒的に強い。個人的には、30～40 分くらいで海、山、自然にアクセスできる神戸圏には圧倒的な強さがあると思う。

（委員）

・神戸だけでは、兵庫県の活性化ができない。地方都市をどこまで広げるかが課題。県内の地方にいる子たちが、就職先がなくて出て行ってしまうのを週３～４回のリモートの出勤等で神戸の会社とマッチングできれば、地方にいる子達は神戸の会社で働くことができる。

・神戸をリモートで繋ぎ止める場所にすれば、高校生が働く環境を見つけることもできる。

・県外に出て行く前に兵庫の良さを高校生に印象づけておいて、県外でしばらく働いた後に兵庫県に戻ってきてねと送り出してもいいと思う。お洒落な場所やクリエイティブなところが県内にもあることを高校生にアピールしていくべき。

（委員）

・これから DIY が注目されていくと考えている。DIY をする現場が神戸にあることに魅力を感じながらも、一度東京や世界に行ったうえで「やっぱり神戸がいいよね」と戻れる場所という意味で、自分のプラットホーム、スタート地点があるということを「シビックプライド」のような言い方で植え付けることはすごくいいなと思う。

（委員）

・ひとつは小さな仕事を作っていくことが重要。週３～４日働ける仕事があまりない。会社側も切り出そうと思えば、作れると思う。いろいろな多様な人材を雇用するムードを作ってくことが必要。

（委員）

・フリーランスは非常にハードルが高い。とりあえず東京を見てこよう、スキルを身につけようと東京に行って、日常の忙しさでそのままキャリアを進めていく人が多いと思う。兵庫県は大学が多く、学生も多い。地域への地縁が生まれているのに、上手く生かし切れていない。
・ライフステージの中で、東京などでスキルが一定程度身についたことや、経験を踏まえて、移住先にクリエイティビティを発揮できる可能性があると見通せた人たちが多いのか。

（委員）

・フリーランスへのハードルの高さを払拭したい。会社員の方が難しいのではないかと思う。就職しなければいけないのではなく、やりたいことをやるためにお金が必要なのに、順番が逆になっている。大学生のアルバイトの時の方が稼げたという人はいっぱいいる。

（委員）

・大学を卒業して、すぐに独立するのはあまり現実的じゃないと思う。もちろん、天才的な方は一部にいる。フリーランス社会になっていくべきだなと個人的に強く思う。
・うちの雇用形態は、新卒は低い固定給で、２～３年目になると少し歩合が入る。不動産業は、数年間プレイヤーになると完全フリー契約で、徐々に独立できる雇用形態にしている。新卒の子が「働いていて満足度が一番高かった」と言ってくれた。安定しない働き方ではあるが、一歩一歩ステップアップして、自立していくプロセスを会社として作ってあげることが重要。
・中小企業が頑張って雇用を増やすしかない。そのプロセスの中で行政に依頼するとすれば、20 代の雇用を増やすことを応援する制度が必要。

（委員）

・都心オフィスをできるだけ縮小する流れは非常に多い。オフィスに行って仕事をするのではなく、カフェなどの第三の空間で仕事をする流れもどんどん出てきている。やはり、都心の魅力が維持されていくと思う。時差出勤やテレワークが推進されて、通勤のストレスが緩和されると、地方と東京を比べたときにどちらが魅力的かと言われたら、微妙になってきている。
・卒業生が東京に住んでいて、「東京は嫌だ」と最初は言っていたが、最近は「あまり人がいない」「快適になってきた」と聞いている。遊びに行ける場所やお洒落な場所がた

くさんある中で、東京が選ばれなくなるのかは疑問。

・職、雇用を増やすことはすごく重要。テレワークに関わるものではなく、地域を守る仕事、地域に関わる仕事を増やしていかなければいけない。東京に職場があるが、地方に住んでいるのは、東京の企業を豊かにしているだけ。地域を守る仕事をどう作っていくかが重要。

・クリエイティブな仕事やスキルを持っていないと地方ではチャレンジできない印象をもった。障害を持った方や高齢者をいかに地域の産業に巻き込んでいくか、地域を守る仕事に巻き込んでいくかを考えていかなければいけない。その意味では、地元に密着して、リモートを活用しながら、バランスを上手くとって、新たな地域の産業、雇用を生み出していくことが重要。

（委員）

・対面での仕事ができない人を雇用することができている。適材適所で、リモートをやるかどうかは重要ではない。

（委員）

・オーソドックスな産業である農業、建設業、ものづくり、観光業をきっちりしないといけない。そこをアップデートしないといけないと提案している。農業は真面目にやれば野菜は作れる。売り先もいくらでもある。そう考えると農業は雇用の可能性がある。例えば、ローカルビアプロジェクトでは、地元の麦でビールを作ることをしている。ビール業界の寡占や大手食品メーカーが寡占してきたエリアを開拓できれば、大きくはないが収入を生む手法はある。そういったところを支援してくことが大事。

・もうひとつは、テレワーク移住がコロナ渦において大チャンス。テレワークで少し兵庫に住んでもらって、テレワークで移住しながら、建設業や農業、ものづくり業などで徐々にテレワークをやらなくていいようにシフトしていくこともできる。

（委員）

・いろいろな企業の声を聞いていると、コロナ禍によって在宅勤務が増えた、出張費や時間外勤務手当が激減したなどの話をよく聞く。会社に出なくても仕事がまわるなどの劇的な変化が起こっている。

・地元に戻りたい人も増えている。もともと兵庫県民だった人に移住定住を勧めるチャンスと思う。e-県民制度を使えば簡単にアプローチできる。元県民の人達の立場に立って、戻って来ることに何がネックになっているのかを検討する必要がある。今日の話でもあった、先に移住した先輩の声をどう聞くのか、ボランティアで発信もされているので、非常に重要なメッセージをいただいた。

・コミュニティには閉鎖的なところもあり、新参者を受け入れない雰囲気のところもある。東京の良いところはお互いに干渉しないところ。地方によっては、干渉し合って、新参者が行きにくいところがある。寛容さのある地域を作っていくことが重要。

・移住はできないが、県外にいる兵庫県のために活動してくれる人をどう増やしていくかが大事。アクティブな関係人口をどう作っていくか。地元のことをよく知っていて、

東京のビジネスも知っているので、独特の感覚を持っている可能性があり、リモートで地域活性化のアイディアを出してもらうなどの方法もある。

- 議論になったのが、働くところでどうやって生活の質を上げていくのか、もしくは、生き方を高めていくのかということ。人によっていろいろ価値観があるが、働くことの一辺倒ではなく、趣味を楽しみながら働くスタイルが今後出てくる可能性がある。兵庫県は東京にない価値を提供できる可能性がある。
- 私の大学では、卒業生のほとんどが東京に本社本店のある企業に就職しているが、そのうちのほとんどは関西にいたいと思っている。要は、企業が居住条件を握っているため、結果的に東京に行っている。そうなると就職する段階で兵庫県に職を作らないといけない。学生の就職活動を見ていると、会社のことをあまり知らず、有名企業に偏りがちになる。そのため、地元の企業の情報をどう伝えるのかが課題になる。
- 「オンライン移住」の話は重要で、例えば、「バーチャル移住体験」みたいなものが今後でてくると思う。まずはお試しでやって、移住を経験していくことができればよい。
- 循環経済が本当に高まっているのか指標化していくことが重要。
- 都市と田舎のバランスは、いろいろな価値観がある。都会が好きな人は都会にいるだろうし、田舎に行きたい人は田舎にいる。今の流れは、ずっと都会に居続ける選択肢が崩れてきている状況にある。そこは兵庫県としてはチャンスかと思う。